

指導資料

国語科 第 114 号

— 小, 特別支援学校対象 —



鹿児島県総合教育センター

平成 21 年 10 月発行

論理的思考力を育てる説明的文章指導の在り方 — 新学習指導要領を踏まえて —

論理的思考力の育成については、言語の教育である国語科が大きな役割を担っている。それは、「日常生活の論理は言葉の論理でもあるので、言語を通して身に付けるのが最も効果的であると考えられる*1」からである。

そこで、本稿では、説明的文章（以下、説明文という）の学習を通して、子どもたちの論理的思考力を育てる指導の在り方について述べる。

1 論理的思考力とは

論理的思考力は、平成16年2月の文化審議会答申や新学習指導要領解説国語編などから、「言語を手掛かりにして筋道を立てて考える力」と定義付けることができる。

説明文学習でいうと、書かれている文章を事実と意見に区別したり、根拠と理由を明確にしたりしながら読むことや、筆者や自分の考えなどを整理し、分かりやすく筋道の通った文章などに組み立てることができる能力といえる。

2 説明文学習に関する指導内容

新学習指導要領における説明文学習に関する指導内容をキーワードで整理すると表

1のようにまとめることができる。

表 1 説明文学習に関する指導内容

学年	指導内容に関するキーワード
1・2	<ul style="list-style-type: none">・ 時間的な順序, 事柄の順序・ 内容の大体・ 大事な言葉や文
3・4	<ul style="list-style-type: none">・ 中心となる語や文・ 段落相互の関係・ 事実と意見との関係・ 要点・ 文章の引用, 要約
5・6	<ul style="list-style-type: none">・ 要旨・ 事実と感想, 意見などの関係・ 自分の考え

これらの指導内容から、説明文の読みの視点として、次の五つが考えられる。

- 1 書かれている内容を理解する。
- 2 書かれている方法を理解する。
- 3 筆者の意見や考えをとらえる。
- 4 自分の意見や考えをもつ。
- 5 自分の表現に生かす。

説明文学習においては、子どもたちが、単に書かれていることを理解するだけでなく、どのような方法で書かれているか、筆者のどのような考えが述べられているか、そのことについて自分はどう考えるか、自分の表現にどう生かしていくのかという読

みの視点をもって学習することを通して、論理的思考力を育成することになる。

3 論理的思考力を育てる指導のポイント

(1) 系統性を踏まえた指導

説明文指導において論理的思考力を育成するためには、指導内容の系統性を踏まえ、何に目を向けさせて考えさせるのかを明らかにして指導する必要がある。

ア 低学年

低学年では、主に言葉や文に目を向けさせ、内容の大体をつかむことが学習の中心である。

例えば、教材「じどう車くらべ」(1年)では、「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。」という問いの文に対して、「トラックは、にもつをはこぶしごとをしています。」という答えの文を対応させたり、「そのために」という言葉に注目させたりすることで、じどう車のはたらきとつくりを読み取っていく。

イ 中学年

中学年では、低学年までの学習を基に、主に段落に目を向けさせ、段落相互の関係や要点をつかむことが学習の中心となる。

例えば、教材「ありの行列(3年)」では、第1段落の「なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。」という問いに対して、答えがどの段落に書いてあるかを読んでいく。その際、どの言葉や文でそれが分かるのか、根拠を明確にして読んでいくことが大切である。

ウ 高学年

高学年では、中学年までの学習を基に、主に文章全体に目を向けさせ、文章の要旨をとらえたり、自分の考えをもったりする学習を行う。

例えば、教材「サクラソウとトラマルハナバチ(5年)」では、中学年までの学習を生かし、「はじめ－なかⅠ－なかⅡ－おわり」の文章構成を把握する。その上で、筆者の述べたい中心が最終段落にあることをつかみ、要旨をとらえていく。

なお、これらの学習を進める際には、子どもの思考がそれぞれの学習内容に向くように、系統性を踏まえた発問を工夫することが大切である。(表2)

表2 系統性を踏まえた発問例

学年	発問例
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none">「問い」と「答え」の文はどれですか。「問い」の文には赤線を、「答え」の文には青線を引きましょう。順序を表す言葉はどれですか。～のわけはどこに書いてありますか。
3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none">この段落の中心文はどれですか。問いに対する答えが書かれている段落はどの段落ですか。この文章は、大きく分けるといくつに分けられますか。その理由は何ですか。
5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none">筆者はなぜこのような順序で事例の挙げたのだと思いますか。要旨を書くときに欠かすことができない言葉はどれですか。筆者の主張についてあなたはどうか考えますか。

(2) 具体的な学習の方法の習得と定着

前項で系統性を踏まえた学習指導の必要性について述べたが、それぞれの段階で学習したことが、次の学習で生きるように、具体的な学習の方法の習得と定着を図ることが大切である。

例えば、中学年で要点をとらえる学習を行うが、その学習は要旨をとらえたり、要約したりする学習の土台となる。そのため、子どもたちが要点をとらえる具体的な方法を習得し、他の文章を読んでも要点をとらえることができるように定着が図られていなければ、自分の力で論理的に思考し、要旨をとらえたり、要約したりすることはできない。

そこで、例えば、図1のように段落の要点のとらえ方を整理し、活用できるような指導の工夫が必要である。

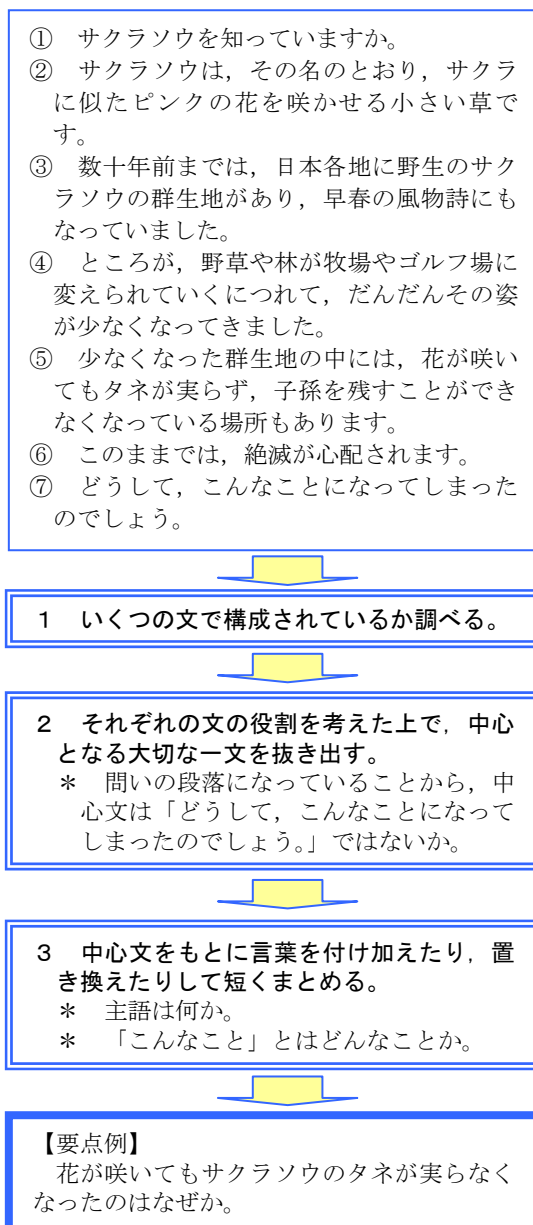


図1 要点のとらえ方の例

(3) 考えたことを整理する学習活動の工夫
 子どもたちが論理的に思考していくためには、自分が考えたことを何らかの形で整理し、表現することが大切である。

例えば、中学年で、段落相互の関係、意見と事実との関係をつかむ学習を行う際に、自分の考えを整理し表現する活動として、図2のような文章構成図を作る学習が考えられる。この活動により、自分が考えた段落相互の関係を整理し、文章構成を視覚的にとらえることができる。

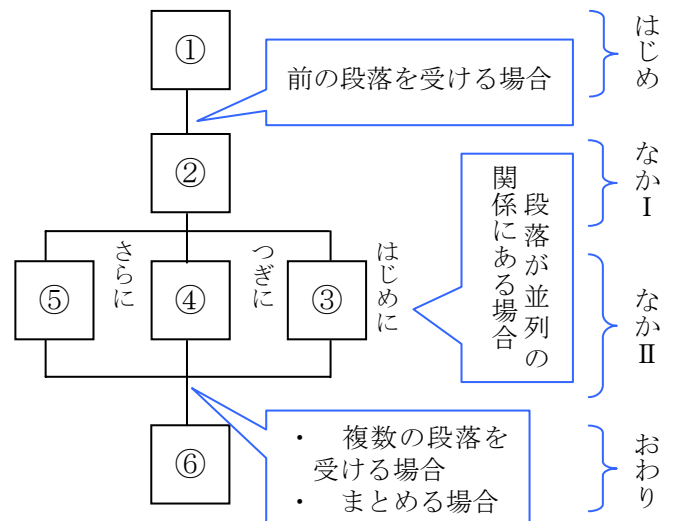


図2 文章構成図の書き方

(4) 思考・判断・表現の流れを重視した言語活動の工夫

新学習指導要領においては、児童の「思考力・判断力・表現力」を育成するために、各教科・領域等で言語活動の充実を図ることが求められている。それは、言語が「論理や思考といった知的活動の基盤^{*2}」であるからである。

思考・判断したことは、表現されてこそ、その内容を確認したり、整理したりすることができる。そのため、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」「書くこと」を

関連付けた言語活動を工夫していくことが必要である。

ここで、「読むこと」と「書くこと」の関連を図った言語活動を取り入れた実践を紹介する。

(指宿市立川尻小学校 上野大輔教諭の実践から)

- | | |
|---|--|
| 1 | 単元名
筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう。 |
| 2 | 教材名「平和のとりでを築く」
「自分の考えを発信しよう」 |
| 3 | 言語活動例との関連
・ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いてたり編集したりすること。【書くこと】
・ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。【読むこと】 |

なお、言語活動が「活動あって学びなし」の活動にならないように、身に付けさせた力を明確にし、学校や児童の実態に応じてどのような言語活動が効果的であるかを十分検討して、学習を進める必要がある。

論理的思考力の育成は、「読むこと」の領域だけで育成されるものではない。各領域の関連を図りながら、計画的・意図的な学習活動を工夫して育成を図っていきたい。

- * 1 『これからの時代に求められる国語力について』（文化審議会答申）H 16年2月
- * 2 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について』（中教審答申）H 20年1月

(教科教育研修課)

過程	時間	主な学習活動	
つかむ・見通す	2	1 「平和」について、知っていることや感じていることを自由に話し合う。 2 学習課題を設定し、学習計画を立てる。	○ 単元全体の学習課題を設定し、子どもたちに具体的な言語活動を示すことで、学習意欲をもたせる。
		3 全文を読み、学習の見通しを立てる。 (1) 教材文を読み、意見文の特徴を知る。 (2) 意見文を書くために参考資料を読む。 (3) 学習したことを基に意見文を書く。	
調べる	4	4 教材文を読み、意見文の特徴や書き方について学習する。 (1) 比べ読みを行い、教材文の特徴をつかむ。 (2) 筆者の主張や考えが書かれている段落を見つけ、筆者の考えや意見をまとめる。 (3) 話題提示や事実の挙げ方、記述の工夫を理解する。	○ 教材文を読む視点を明確にし、言語活動とどのようにつながっていくのかを子どもたちが意識しながら学習できるように工夫する。
深める	6	5 教材文を振り返り、意見文の書き方をまとめる。 6 意見文を書くために必要な資料を読む。 7 文章の構成を考え、意見文を書く。	○ 必要な資料を読んで意見文を書き、新聞に投稿するという言語活動を行うことで、学習したことを日常生活の中で活用していく力を身に付けさせる。
いふりかえす	2	8 交流会を開き、自分の文章を見直す。 9 単元全体の振り返り、今回学習した意見文の書き方が、他教科や実生活に生かせる場面を話し合う。	